

オンダ製作所

1.概要

1963年11月、現社長・恩田由紀(よしのり)さんが19歳の頃にオンダ製作所を創業。1972年に株式会社に改組したとき、由紀さんはまだ若かったため兄の恩田勝さんが社長に就任。増設を繰り返しながら全国18の営業所、3の物流拠点、3の工場を持つまでの企業となっている。

事業内容は住宅関連部材（給水、給湯、灯油、ガス等のバルブと管継手及び樹脂パイプ・継手）の設計・開発、製造および販売。金属は耐久性に優れ、金属よりプラスチックは軽量化することができるなど、素材の特徴を捉えて改良されている。また、金属もプラスチックもリサイクルし、限りある資源を有効活用して地球環境保護に努めている。さらに、全行程を責任をもって製造・管理しているため、確実な品質保証、納期の短縮、フレキシブルな生産を実現している。

2.山県市のDVD作成に協力したきっかけとその後の効果

山県市役所から依頼の連絡があったことがきっかけで、協賛することになった。

地域に貢献できることは最大限協力しようという方針がもともとあったようで、その後の効果は特に意識していないという。

3.地域貢献活動や社員ボランティア活動への支援

山県市のDVD作成に協力した経緯にも地域貢献の意識があったように、会社周辺の清掃や支援金などできることはしている。約500人の社員それぞれがボランティア活動をしていることはあっても、会社として活動を起こすところまでは追いついていない。

関工場では障がい者の方が10人ほど働いている。他にも、さまざまな福祉施設に簡単な作業を依頼するなどしているそうだ。

今回この調査にもご協力いただいたように、より多くの人にオンダ製作所を知ってもらうためにも工場見学をすすんで受け入れるなどしている。この項目についてはまだ弱い点だという。

4.「ものづくり」の未来

「強い者、頭の良い者が生き残るのではない。変化するものが生き残るのだ」という

「種の起源」で有名なダーウィンの言葉を挙げた。お客様のニーズや素材の改良など、環境や社会の変化に適応できなければ生き残ることはできないと話していた。

5.この地域で「ものづくり」を発展させるのに必要なこと

国や県との官民一体で、技術者を育てる力を高めていくことが必要。

6.「ものづくり」に関する若者への期待

第一に担当者の方がおっしゃったのは、

「歴史を学んでほしい。そのほうがきっと成功も早い」ということだった。ここでいう歴史とは社会科の勉強のようなイメージではなく、データや経験といった数々の先輩方によって得られてきたことを知ることだという。

7.どんな力のある新入社員を求めているか

大事なキーワードがあった。「半歩先を」

一歩というほど先を行かなくてもいいから、少し先を想像し、お客様が欲しいものを作り出そうとできる技術者になってほしいとのことだそうだ。

8.キャリアアップの仕組み

入社前に取った資格と入社後に取った資格を合わせると、社員は一人当たり平均7つの資格を持っている。基礎能力に加え、資格試験のために講座を開いたり先輩社員が自然と後輩社員の勉強を支援したりと、スキルアップに向けてより良い人間関係を育みながらも取り組んでいる。

受験者の男女比は例年およそ8：2。採用者の男女比は試験で公正に判断した結果、偶然にも5：5くらいになるのだそうだ。責任者に女性もいて、育児休暇もちゃんと取得することができる。男女関係なく実績で評価するのだという。

